



JR東労組 (東日本旅客鉄道労働組合)
 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-24-1
 東日本旅客鉄道株式会社 代々木総合事務所 5階
 電話 03-5315-0941
 発行人 佐藤英樹 編集人 湯ノ目亜矢子
 毎月1回20日発行/一部20円
 (組合員の購読料は、組合費に含む)

2022年11月20日
第742号



JR東労組ホームページは
 ←こちらからアクセス
<http://www.jreu.or.jp/>

申6号 2022年度年末手当等に関する申し入れ
 申7号 組合員・社員と家族の生活を守り、モチベーション維持・向上を求める
 2022年度年末手当等に関する緊急再申し入れ

基準内賃金の **2.4ヶ月+2万円** [支給日(予定)] 2022年12月5日(月)

**最後まで訴えるも回答覆せず！
 苦渋の決断で妥結の判断！
 この怒りや悔しさをバネに23春闘に繋げよう！**

要求実現と組織拡大は両輪だ！ 各地本で続々と加入拡大！

11月11日、申6号「2022年度年末手当等に関する申し入れ」の第3回交渉が行われ、会社から「2.4ヶ月+2万円」という、要求とはかけ離れた回答が示されました。

この間、黒字転換へと導いた「職場の努力」と、様々な施策によって働き度が上がった「労働実感」、物価上昇に伴う厳しい「生活実感」を、組合員のみならず、未加入者を含め6,000件以上の声を訴えてきました。しかし会社は「黒字決算は社員一人ひとりの尽力」と回答しながらも「当社を取り巻く環境は引き続き楽観視できない」「会社として最大限の回答」として低額回答を示しました。現場の苦労を踏みにじる到底納得できない回答に対し全地本で緊急声明が発出され、職場の掲示板は組合員・社員の怒りの声であふれかえりました。

本部は緊急に開催した「全地本代表者会議」や、回答に対する怒りに満ち溢れた「職場の声」をもとに、11月14日、申7号「組合員・社員と家族の生活を守り、モチベーション維持・向上を求める2022年度年末手当等に関する緊急再申し入れ」を行い、11月16日に団体交渉を行いました。会社は「組合員・社員の声を受け止める」としつつも回答を変えることはなく、苦渋ではありますが妥結の判断を行いました。

この怒りや悔しさをバネに次なる23春闘のたたかいにつなげるため、全組合員で組織拡大を実現していきましょう！！

バス関東本部 席上妥結せず 持ち帰り議論中！

第3回団体交渉(11月18日)にて回答を受けるも、要求額2.7ヶ月に対して組合員の努力に報いない回答に納得できないことから、持ち帰り議論中！

【社員】
 基準内賃金の月額 **1.6ヶ月**

【契約社員A】
 基本給及び都市手当ならびに扶養手当それぞれの月額を1.3倍した額

【契約社員B及び臨時雇用員】
 継続雇用期間及び稼働実績に基づき、個別に定めた額

【支給日】
 2022年12月5日(月)以降準備出来次第

バス東北本部 妥結！

相次ぐ退職や列車代行輸送によって要員不足が深刻な中、転勤・助勤・休日出勤などで努力する組合員からの「人材流出を防ぐためには満額回答しかない！」という悲痛な声を力強く訴え、11月18日に妥結！

【社員】
 基準内賃金× **2.0ヶ月**

【契約社員】
 基本日額×23日×1.75ヶ月

【支給日】
 2022年12月5日(月)以降準備出来次第

ステーションサービス協議会 妥結！

基本給が年齢に見合わず苦しい中、黒字化にも関わらず低額な回答に不満の声！「人材が一番の財産と言うなら大事にするべきだ！」「(経営陣は)現場の苦労を見に来るべき！」と強く訴えつつ、様々な声を受けて組織内で議論の結果、苦渋の決断で11月17日に妥結！

【社員】
 基本給月額の **2.45ヶ月**

【支給日】
 2022年12月1日(木)以降準備出来次第

組合員・未加入者を問わず怒りの声が続々寄せられる！組織拡大で経営姿勢に立ち向かおう！

2月24日にロシアがウクライナに侵攻して始まった戦争は、9ヶ月が経とうとしている。犠牲者が増え続ける現実を目を背けてはならない▼国際情勢は悪化し、生活への影響は世界全体に波及しているが、11月15日にはポーランド東部にミサイルが着弾して市民2人が亡くなった。ご冥福をお祈り申し上げる▼現時点ではこの国のミサイルが明確ではないが、NATO加盟国であるポーランドに被害が生じたことで、第三次世界大戦の引き金となることを想起した人も多いのではないだろうか▼日本は台湾有事や北朝鮮のミサイル脅威を理由に防衛費を増額しているが、「防衛」という言葉で正当化し戦争のできる国に向かっていくことに危機感を持たねばならない。憲法9条を変える動きも顕著になる中、改憲されれば生活はどう変わるのか、諸外国は日本をどう見るのか。「考える」ことが必要だ▼ロシアでは自分が戦場に立たされることになって初めて行動を起こす人がいるが、それでは手遅れである。おかしいと思うことは平時から声を上げ、命と生活を守るために労働者の力を結集し声を上げ続けよう。

(M・N)